

平成 27 年 6 月 17 日現在

機関番号：12613

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2012～2014

課題番号：24252008

研究課題名(和文) 選別的移民政策の国際比較 新自由主義 / 新保守主義と国民国家の境界再編成

研究課題名(英文) International Comparison of Selective Immigration Policies:  
Neoliberal/neo-conservative Complex and the Transformation of National Boundaries

研究代表者

小井土 彰宏 (KOIDO, Akihiro)

一橋大学・大学院社会学研究科・教授

研究者番号：60250396

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 17,900,000円

研究成果の概要(和文)：選別移民政策を単なる高度技能移民の移民の積極的誘致としてではなく、移民の受け入れと排除の両面を統合的に捉える視点を打ち出し、これにより主要受け入れ7カ国の1990年代末以降の諸政策を比較検討し、移民政策に内在する両要素を相互補完的なものとしてその傾向を横断的に俯瞰した。この結果、1) デジタル化したIDカード・生体認証が作り出す技術インフラが両目的の統合的に追求する傾向の存在、2) 排斥されたはずの非正規移民から選別的包摂が進行、3) 時間的な経過によって段階的な選別がしばしば実施、4) 定住化の承認が新自由主義的な短期的労働力包摂と緊張を高めているなどの、選別政策をめぐる問題群を明確化した。

研究成果の概要(英文)：This project proposed "selective immigration policy" as a heuristic concept to analyze double sided newly emergent policy mix, i.e. aggressive incorporation of highly skilled immigrants as well as systemic exclusion of undesirable immigrants, i.e. irregular immigrants, from a unified perspective. From this perspective we analyzed 7 major immigration countries and elucidated the mutually complimentary nature of two factors in contemporary immigration policies. Comparative analysis showed following: 1) systemic application of digitalized ID card in combination with biometric technology tends to promote both policies in an integrative manner, 2) selective incorporation of parts of excluded irregular immigrants according to their skills in diverse nations, 3) multi-stage selection process in time series, 4) Consequently we have seen increasing tensions between the neo-liberal logic of maintaining temporary nature of workers and the necessity to recognize immigrants as settlers.

研究分野：国際社会学

キーワード：移民政策 国際移民 国際社会学 外国人労働者 労働市場

## 1. 研究開始当初の背景

1990年代以降、移民への規制政策、排除の傾向が強まる一方、一部の有用と考えられる移民に対しては、積極的に受け入れる政策が多様な国々で拡大して来た。1990年代以降発達してきた移民政策の国際的な諸研究においては、一方で各国政策における共通の傾向性を強調する視点と、国民国家の歴史的形成過程などの歴史的な脈に規定された固有の移民政策の論理を強調する研究視点からの論争が繰り返されてきた。

これに対して、本研究は、新自由主義的な競争の論理により、グローバルな市場競争にとって必要な労働者を受け入れつつ、新保守主義的な論理により異質でリスクを持つ他者を排除するという現代の資本主義国家の持つ複合性がそこに通底しており、選別移民政策という概念を導入することでこの二面的な性格を国家横断的に統合的に捉えることを企図した。他方、その具体的な形態においては、各国や各地域の歴史的に構造化された国籍、市民権、地域統合などを基礎としたレジームにより、その選別の論理が多様な形に構造化する点に注目し、比較を繰り返すことによりその具体的な構造化の要因を析出することを目指した。

## 2. 研究の目的

研究の大きな目的は、(1)非正規移民への規制システムの持つ社会的な選別効果を広範に分析すること、(2)有用労働力の受け入れの基準の構成要素とその形成過程、そしてその現実の社会過程への効果の分析、の二つからなる。

### (1) 非正規移民への規制システムの分析とその社会的な影響

規制体制のシステム化の中に内在する対抗的な志向性としての、a. <管理強化のためのシステム統合による集権化>対<地域的新保守主義による下からの規制>、b. 国境(海岸線等)管理と国内管理の政策変動とその両者の相対的な比重や政策的連動が各国で、いかに作用してきたか。

形成されてきた規制システムのバイアスによる出身地、人種、産業、地域による規制の差

規制システム強化の生み出した結果への対応策: a. 摘発・収容・強制送還の大規模化による収容・送還人口の拡大による規制の効率化・選別化、b. 非正規移民の検挙の社会的コストの拡大への反発に対する正規化の圧力とそれへの対応策

### (2) 高度技術移民への選別的受け入れ

必要性・有用性の基準とその設定の社会的なプロセス

<短期的労働力としての性格の維持>対

<定住・市民への可能性の開放>

<受け入れ企業主導の供給システム>対

<移民個人の専門性の国家による選別>

専門知識以外の基準での選別メカニズムの影響による文化的な差別・排除の可能性

## 3. 研究の方法

本研究では、選別的移民政策の2つの主要な柱である(1)非正規移民に関する入国管理・国内取り締まりと(2)高度技能移民の受け入れの二領域について、I.伝統的移民国(合衆国・オーストラリア)、II.ヨーロッパ国民国家(フランス、ドイツ、スペイン)、III.アジア新興受入国(韓国、日本)という移民政策に関して歴史的に大きな差異を持つ国家群を比較するとともに、その各グループ内部での質的な差を考慮して比較し、次のような手順で多段階的に解明してきた。

第1に、各国の移民政策資料とマクロデータの収集と分析を進め、各国における予備調査を政策担当者等に対して実施した。

第2に、各国における数週間～数ヶ月の現地調査を通じて2つの領域に関連する政策担当者、現場係官、企業団体、移民支援機関、さらに移民本人たちへの聞き取りを実施し、可能な限り選別、収容、そして就労の現場を観察することを心がけ、そのことによって単なる法律条文や制度分析にとどまらず、形成された政策の実際の運用のあり方とその社会的な作用についての質的なデータを収集し、分析した。

第3に、各国分析を踏まえて、グループ研究班、定例研究会を通して政策の中で、法律条文を超えて政策の実態的な機能に関して、表層的な比較を越えて、その社会的な効果の類型的な接近や著しい対象について検討し、そのグローバルな構造的な要因や歴史的なレジームの差異について検討した。

## 4. 研究成果

### (1) 選別的移民政策における積極的包摂と排除の論理の相互浸透

従来、積極的な有用移民の勧誘と選抜による受け入れは、移民の入国管理の厳格化や国内における取締りとは別の問題として語られるか、あるいは対立的で相互排他的なものとして議論されがちであった。しかし、今回のプロジェクトの諸事例の分析は、この両者が必ずしも分離したものではなく、相互に補完しあい、また浸透しあう部分があることを明らかにした。

第1に、移民管理のシステム化の中での、パスポート管理、外国人IDカードにおけるデジタル化と生体認証技術の応用が進展し、このような基盤の上では、一方の非正規滞在者のシステムティックな職場・学校での排除と、他方における有用と認定された移民の確実な把握が、同時に追及できることが、日本の新しい在留カードやアメリカにおけるE-verifyシステムの構築を典型例として、同じ傾向が浮かび上がってきた。第2に、排除された非正規移民のカテゴリーの中から資

格・教育達成を基準として、有用労働力を選別し、これを労働市場に組み込むための正規化や特別措置が進行してきた。合衆国における若年時入国非正規移民の中の高学歴若者層の大統領特例措置(DACA)、ドイツにおける庇護権請求者の中の労働能力の検証されたものなど、一旦排除された国内移民労働力プールから優先的に有用者を合法化するメカニズムが、フランス・スペインなどを含めて確認できた。

#### (2) 時系列的な段階的選別構造の形成

各国の事例からは、移民の選別は一時点におけるものと捉えることは不十分であり、実は時間経過の中で変動可能なものであることがしばしば確認できた。即ち、フランスにおいて非正規滞在しながらも、雇用主により有用性が認定される場合、多様な職種でその正規化が個別的に承認されてきた。

また、スペインにおいても、表門となる就労ヴィザ管理は一見厳格であることにより、非正規滞在者を多数生み出しつつ、滞在就労を通じて有用性が認められると、表面上は各国別に割り当てられた労働市場の必要性に基づく枠が、国内に非正規滞在されているものに優先的に配分されることで実質的な有用性選別が行われるなど、多様な形態での時間経過の中での選別過程が存在することが確認できた。

#### (3) 新自由主義的政策と定住性との緊張関係

時間経過の中での検証する選別メカニズムは、必然的に定住性を増大させ、その結果として能力上の承認に基づく労働市場への組み込みは、定住許可につながる。このことは、新自由主義的な有用移民の滞在をあくまでも、短期・中期的な滞在に限定し、その労働力商品的な性格を維持するという原則と大きな矛盾をはらんでいる。この点で、フランス・スペインの両国は労働経験による検証という点で際立って入るものの、同時にアメリカ合衆国、カナダ、そしてドイツにおいて、国際的な相互競争を通じて徐々に高度技能移民を短期滞在の調整可能な有用労働力とのみではなく、より長期に滞在し続ける存在として認めることで、能力を検証しつつもその惹き付けを求める傾向が強まっている。このことは、本来的な新自由主義的な政策の自己矛盾に逢着するという可能性を秘めている。

#### (4) 移民管理・排除の論理の複合化と脱領土的な再編成

非正規移民の国境など境界領域での排除メカニズムは、選別的政策の前提条件とも言えるが、この排除メカニズムが、多層的に交錯し、また旧来の国民国家的な枠組みを超えて展開し構築されてきたことが解明できた。

EU 南部国境地帯を構成するジブラルタル

海峡では、一方で EU 主導での海上監視がシステム化され強化されつつ、海上突破による入国を図るサブサハラ系などの移民の事故に対応して NGOs がその活動を活発化させ、これにより監視と救援・受け入れの論理の交錯と相互浸透が進行し、さらにスペイン領 Ceuta の収容施設では、移民の拘束・送還が第 1 義的目的とは言えず、監視下における同化可能性を高める訓練が制度化されてきた。

同様に、オーストラリアにおいても海上での庇護を求めて到来するボートピープルの監視、海外領土への封じ込めが進行する一方、政策転換の中で庇護権請求者のコミュニティ・ベースの収容が進行し、一面的な排除・拘束・収容とはいえない複合性を示してきた。

他方、北米大陸では、従来の国境管理から、ブッシュ政権後期・オバマ政権にかけて、国内における取締り強化と収容・送還を体系的に発達させてきたが、今回のメキシコシティにまで至る国境縦断的な調査によって、非正規移民に対する徹底した排除・送還が、メキシコ社会内部にまで影響を与え、非正規移民に対する社会的な規律化が国民国家の領域を超えて貫かれていく構図が見えてきた。一方でこれは、EU 南部国境と著しい対比を示しつつ、他方 EU の共同発展計画 Co-development プログラムの持つ、多様な援助と移民管理のパートナーという超国家的なレジーム形成と並行的・同型的な過程がそこには見出されてきた。

#### (5) 移民問題をめぐる国際シンポジウムの開催と発信

2013 年 6 月には、プリンストン大学社会学部のアレハンドロ・ポルテス教授、フランス国立科学研究センター名誉研究部長であるミリヤナ・モロクワシチ氏などの参加を得て、移民問題の北米・ヨーロッパ・東アジアの三地域における国際移民状況を各地域特有のレジーム形成に注目しながら、トランスナショナルな社会空間の構造化の差異について議論し、三地域間の対話のための共通認識を構築する機会とし、将来の移民政策の国際比較の国際共同研究に向けての前提の構築を期した。

#### 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 20 件)

Shiobara, Yoshikazu, (translated by Christine Pelloquin and Luca Marin), La classe moyenne multiculturelle mondialisée et la fragmentation de la citoyenneté, Migrations Société, 査読無、Vol.27, no. 157、2015、pp.111-131

小井土彰宏、グローバリズムと社会的排除に抗するアメリカでの非正規移民運動監視機構の再編と新自由主義的排除メカニズムへの対抗戦略の諸相、社会学評論、査読

有、第 65 卷 2 号、2014、pp.194-209

昔農英明、セキュリティ対策としての移民統合 2000 年代におけるドイツの事例、社会学評論、査読有、第 65 卷 1 号、2014、pp.47-61

小井土彰宏、アメリカ合衆国強制送還政策の帰結：被強制送還者の直面する困難と支援団体の活動から、Migrant-Network、査読無、No.166、2014、pp.3-5

塩原良和、外国につながる子どもの教育シテイズンシップの視点から、別冊『環』、査読無、第 20 号、2014、pp.250-255

鈴木江理子、人口政策としての外国人政策将来推計人口から考える、別冊『環』、査読無、第 20 号、2014、pp.0-86

鈴木江理子、多様なルーツをもつ人びと『共に生きる』社会をめざして - 自治体 / 地域社会の視点から、月刊自治研、査読無、Vol.57, No.38、2014、pp.16-22

鈴木江理子、加速する外国人受入れ政策 - 『成長戦略』の名のもとに、Migrant-Network、査読無、No.173、2014、pp.3-5

宣元錫、松下奈美子、倉田良樹、津崎克彦、韓国人 IT 技術者の送り出し過程と日本の外国人高度人材受け入れ 2000 年代の拡大局面に注目して、移民政策研究、査読有、第 6 号、2014、pp.132-147

伊藤るり、EU の重層化する移民空間と共通移民政策 フランスのサンパピエを参照点として、歴史地理教育、811 号、査読無、2013、pp.27-32

鈴木江理子、排除される外国人 - 『不法』滞在者、『偽装』滞在者、そして・・・、日本における外国人・民族的マイノリティ人権白書 2013、査読無、2013、pp.5-6

鈴木江理子、『住民基本台帳法』改定に関する自治体アンケート調査結果報告、日本における外国人・民族的マイノリティ人権白書 2013、査読無、2013、pp.84-93

鈴木江理子、留学生と日本社会 - 誰のための受入れなのか？、Migrant-Network、査読無、No.161、2013、pp.3-6

鈴木江理子、人口減少社会・日本の選択 - 『補充』外国人の可能性、教養論集、査読無、第 75 号、2013、pp. 25-48

鈴木江理子、震災があらわにした移住者た

ちの現在 - 『共に生きる』とは？、学術の動向、査読無、第 18 卷第 11 号、2013、pp.10-18

宣元錫、越境する労働者受給システムと国家役割の再構築 韓国の外国人労働者導入政策を中心に、朝鮮族研究学会誌、査読無、2 号、2013、pp.27-39

鈴木江理子、非正規滞在者の就労と社会構造 - 『つながり』と『排除』、労働の科学、査読無、第 67 卷第 5 号、2012、pp.14-17

〔学会発表〕(計 17 件)

Koido, Akihiro, Japanese "Immigration" Policy at a Crossroads: Structuration and Legitimation of Diversifying Migrant Populations and Coming Challenges、Department Seminar Facultat fur Sociologie, Bielefeld Universitat, June. 10.2015, Bielefeld (Germany)

Koido, Akihiro, Deepening Contradictions of Contemporary Japanese 'Immigration' Policies: Multiple gates of incorporations and diverse modes of legitimation、Seminaro Permanente, Instituto de Ecomia, Geografia, y Demografia. Centro de Ciencias Humanos y Sociales、Consejo Superior de Investigacion Cientificas. June.1.2015, Madrid (Spain)

Koido, Akihiro, Multiple modes of transnationalism around Japan: Diversifying Migrant Populations and Policy Paradoxes、Department Seminar, Sociology and Social Anthropology, Central European University, May.18. 2015, Budapest (Hungary)

宣元錫、「便利屋」になっていく途上国のエンジニア - フィリピン人の聞き取りから -、移民政策学会 2014 年度冬季大会、2014 年 12 月 12 日、大阪大学 (大阪府豊中市)

鈴木江理子、非正規滞在者からみた日本の外国人政策 - 本音とタテマエ、日本社会学会第 87 回大会、2014 年 11 月 23 日、神戸大学 (兵庫県神戸市)

Shiobara, Yoshikazu, Between freedom and neglect: Community-based approaches and neoliberalism in policies for asylum seekers in Australia、XVIII ISA World Congress of Sociology (International Sociological Association), July. 14.2014, Pacifico Yokohama, (神奈川県横浜市)

塩原良和、自由と放置のはざままで オー

ストラリアの庇護申請者政策における「コミュニティ・ベース」アプローチと新自由主義、オーストラリア学会第8回地域研究会、2014年01月25日、早稲田大学(東京都新宿区)

Shiobara, Yoshikazu、Everyday multiculturalism and fortuity: A case study, The Fourth Annual Asian Conference on Media & Mass Communication, Nov.10.2013, Ramada Hotel Osaka, (大阪府大阪市)

Koido, Akihiro、The Incorporation of Multiple Forms of "Informal Labor" into Changing Japanese Labor Markets: An Analysis of the Local and Global Context、The Global Market of Unskilled Labor: A Research Conference、Oct.25.2013、Department of Human Ecology, University of California, Davis (USA)

Koido, Akihiro、Development of Transnational Sociology in Japan: Its historical structural context and an overview of its major findings in comparative perspective、International Conference for The 20th anniversary of Hitotsubashi Transnational Sociology Program、June.21.2013、Hitotsubashi University、(東京都国立市)

鈴木江理子、改正入管法・住基法のもとの多文化家族、多文化共生教育研究会第38回定例研究会、2012年12月16日、立教大学(東京都豊島区)

Koido, Akihiro、Structural Conditions for Limited Diaspora Consciousness: Oversea Japanese in Historical and Global Perspective、International Conference on Korean Diaspora Studies: Issues, Theories, and Methods of Diaspora and Transnationalism、Sep.21.2012、University of Korea, Seoul(Korea)

小井土彰宏、犯罪者移民取締りの名の下にーオバマ政権下での移民規制戦略と移民の体験ー、関東社会学会第59回大会、2012年06月09日、帝京大学八王子キャンパス(東京都八王子市)

〔図書〕(計 9 件)

宮島喬、佐藤成基、小ヶ谷千穂、樋口直人、上林千恵子、竹ノ下弘久、高畑幸、高谷幸、佐野麻由子、徐阿貴、小林宏美、村上一基、国際社会学、有斐閣、2015、252(45-62)

上林千恵子、外国人労働者受け入れと日本社会、東京大学出版会、2015、296

宮島喬、鈴木江理子、外国人労働者受け入れを問う、岩波書店、2014、64(2-7、9-20、31-40、50)

昔農英明、「移民国家ドイツ」の難民庇護政策、慶應義塾大学出版会、2014、264

船橋晴俊、壽福眞美、宮島喬、小井土彰宏、具度完、青木武信、朝井志歩、原田悦子、土橋臣吾、伊藤守、藤田真文、公共圏と熟議民主主義ー現代社会の問題解決、法政大学出版局 2013、284(65-94)

駒井洋、小林真生、岡本雅亨、能川元一、南誠、佐々木てる、佐藤成基、森千香子、榎本英樹、濱田国佑、永田大輔、鈴木江理子、レイシズムと外国人嫌悪、明石書店、2013、232(199-213)

鈴木江理子 他、吉原 和男他編『人の移動事典 - 日本からアジアへ・アジアから日本へ』、丸善出版、2013、512(130-131、172-173)

宮島喬、吉村真子、上林千恵子、増田正人、羽場久美子、清水聡、渋谷淳一、長島伶央、高橋誠一、移民・マイノリティと変容する世界、法政大学出版局、2012、262(17-46)

〔その他〕

小井土彰宏、飯尾真貴子、伊藤るり、加藤伸吾、上林千恵子、久保山亮、塩原良和、鈴木江理子、昔農英明、宣元錫、一橋大学小井土研究室、選別的移民政策の国際比較 新自由主義/新保守主義と国民国家の境界再編成 (プロジェクト中間報告書) 2015、239

ホームページ等

一橋大学 国際社会学プログラム

[http://www.soc.hit-u.ac.jp/~trans\\_soci/index.html](http://www.soc.hit-u.ac.jp/~trans_soci/index.html)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

小井土 彰宏 (KOIDO Akihiro)

一橋大学・大学院社会学研究科・教授

研究者番号：60250396

(2) 研究分担者

宣 元錫 (SUN Wonsuk)

大阪経済法科大学・アジア太平洋研究センター・客員研究員

研究者番号：10466906

上林 千恵子 (KANBAYASHI Chieko)

法政大学・社会学部・教授

研究者番号：30255202

伊藤 るり (ITO Ruri)  
一橋大学・大学院社会学研究科・教授  
研究者番号：80184703

塩原 良和 (SHIOBARA Yoshikazu)  
慶応義塾大学・法学部・教授  
研究者番号：80411693

鈴木 江理子 (SUZUKI Eriko)  
国土館大学・文学部・准教授  
研究者番号：80534429

(3)研究協力者

昔農 英明 (SEKINO Hideaki)  
一橋大学・大学院社会学研究科・非常勤講師

久保山 亮 (KUBOYAMA Ryo)  
専修大学・人間科学部・非常勤講師

加藤 伸吾 (KATO Shingo)  
関西外国語大学・外国語学部・講師

飯尾 真貴子 (IIO Makiko)  
一橋大学・大学院社会学研究科・博士後期課程